



地域教育としての流通実験店舗と寺子屋学習・交流塾

広島商船高等専門学校

学生運営による流通実験店舗と寺子屋塾こどもクリエイターチーム

【要約】 流通情報工学科で学習する専門科目の総合的な「流通実験店舗」として、竹原市町並み保存地区の空家を再生し学生運営による店舗経営を行っています。内容は、●地場生産者からの原材料仕入交渉 ●地場原材料による商品開発 ●原価計算による販売価格設定 ●商品バーコード会計管理 ●広告・空間アメニティデザイン ●インターネットメールサービス等の流通システム実習です。

また、流通実験店舗で得る利益に人材と技術を加えて「寺子屋学習・交流塾」で地域へ教育面で還元するコミュニティ・ビジネスや協働のまちづくりを体得しています。

産学官の連携で取り組む流通実験店舗「Cozy Cafe」のコミュニティ・ビジネスと寺子屋学習・交流塾の「たけはらキッズ・クリエイターチーム」の成果を紹介します。



【きっかけ】 「流通情報工学を現場で体験する実習場づくり」と「官民協働まちづくりの拠点づくり」を具現化したものです。

実習場は空家を再生することから始め、2005年5月に竹原サテライト・オフィスとして開設しました。1階がCozy Cafe、2階が寺子屋学習・交流塾です。

Cozy Cafeの経営は4年目を継続しており、学生は生産者・市民団体・自治会・行政などから協力を得ながら経営ノウハウの習得に四苦八苦しています。3年間121日営業で約5200人のお客様を迎え入れ、再投資を除いた収益は竹原市にまちづくり寄付しています。

寺子屋学習・交流塾の運営も4年目を継続しており、学生は「こども講座」を開催し実験や工作といったものづくり教育を担当しています。また、教員や外部からも講師を招いて「おとな講座」を開催し、瀬戸内海をテーマとした地域学講座を担当しています。3年間40講座で約200人の塾生が修了されました。また、2007年にはこども塾生の「たけはらキッズ・クリエイターチーム」が「防災用移動式ソーラー自家発電システム」を産学官連携で開発し稼働を始めました。

【プロセス】 竹原商工会議所青年部・竹原市・東京エレクトロニクス・エフプランニング・君塚製作所との産学官連携事業です。この事業は地域教育プログラムとして試行し、小学生13名で「たけはらキッズ・クリエイターチーム」を結成しました。チームは、約2ヶ月間の連続講座で「ものづくりの楽しさ・地球環境への配慮・防災まちづくり」を体験しながら、●電気のしくみの実験とソーラーカー模型の工作 ●地球温暖化と省エネルギー・災害時の電気の使い方の学習 ●LED案内表示板のはんだづけ・レーザーカッターで型抜き・車止めの工作 ●システムのしくみと使い方の学習を経て、成果を地域の秋祭りでお披露目しました。

【成果】 災害発生による停電時に広域避難所等で利用する「防災用移動式ソーラー自家発電システム」の発電量は激甚災害でライフラインが復旧するまでの3日間を想定しています。ソーラーパネル発電量は1日平均で約500W、バッテリーの蓄電量は約3000Wで、1号機と2号機の2台を接続すると150Wのテレビなら20時間連続使用ができます。災害時の情報収集や通信用として交流および直流電源を備えています。

システムは竹原市役所のロビーにあり、子供らの環境学習にも活用されています。将来は2010年開設予定の「竹原道の駅」に常設し、非常時のみならず日常でも無料充電機として活用されます。



■学内教職員スタッフ(たけはらキッズ・クリエイターチーム)■
 流通情報工学科 教授 岐美 宗(まちづくり・ロジスティクス)
 電子制御工学科 准教授 梶原和憲(計測工学)
 電子制御工学科 助教 今井慎一(電気設計)
 商船学科 教授 馬場弘明(エネルギー工学)
 実習工場 技術専門職員 藤田 清
 実習工場 技術職員 丸山真弘・重岡洋平

■窓口(たけはらキッズ・クリエイターチーム)■
 〒725-0231 広島県豊田郡大崎上島町東野4272-1
 広島商船高等専門学校 流通情報工学科 教授 岐美 宗(あみよしつかさ)
 TEL/FAX: 0846-67-3171 tsukasa@hiroshima-cmt.ac.jp
 地域交流・共同研究センター(総務課企画係)
 TEL:0846-67-3008 FAX:0846-67-3009
 URL:http://www.hiroshima-cmt.ac.jp/

■連携事業の推進■
 広島商船高等専門学校は、
 ●広島県大崎上島町
 ●広島県竹原市 と「人的・物的資源の活用」に関して包括協定を結び連携事業に取り組んでいます。